

意見の概要

- 関東地方整備局による利根川河川整備計画の策定方針はころころ変わり、あまりにも身勝手に恣意的である。2006年から開始された策定作業は2008年5月で中断され、2012年度になって再開されたが、局案の内容はがらりと変わり、八ッ場ダムを位置づけしやういように、治水目標流量が約15000 m<sup>3</sup>/秒から17000 m<sup>3</sup>/秒へと大きく引き上げられた。
- 2006年からの策定作業では利根川水系全体の整備計画策定が企図されていたが、再開後は利根川本川だけが対象である。利根川水系には大きな支川がいくつもあって支川と本川は相互に関係しており、本川だけの整備計画を先行して策定することは科学的にも不合理である。また、五つの有識者会議のうち、2012年9月下旬から本川を扱う利根川・江戸川有識者会議のみが再開されたが、支川を扱う他の有識者会議をどうするのか、何の説明もない。
- 再開後の利根川・江戸川有識者会議では治水目標流量の局案の是非について白熱した議論が行われたが、10月下旬以降は9回連続で会議が中止となり、今年1月末に関東地整はこれまでの議論を無視して計画原案を発表した。
- 2006年からの策定作業で関東地整は計画原案について有機者会議、関係住民の意見を聞いて修正し、それを何回も繰り返して計画案を丁寧につくっていくことを有識者会議の場で言明したが、その約束をどうするつもりなのか。
- 計画原案を撤回し、今までの経緯を踏まえて一から計画づくりを誠実に進め、関係住民の意見を反映した水系全体の整備計画を策定することを求める。

※楷書横書きで、できるだけ400文字以内で記載して下さい。